

タイトル：平成 30（2018 年度）教育セミナー（第 14 回）

日時：2018 年 9 月 13 日（木）～16 日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室（303）

高畑遼平（新潟大学大学院現代社会文化研究科 博士前期課程 社会文化専攻 1 年）

この度の教育セミナーでは、初めてかつ遠方からの参加ということで、開会直前まで不安な気持ちに圧倒されていました。しかし、他の受講生の皆さん・諸先生方から温かいお声がけをいただき、最終日まで有意義な学びの機会とすることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。普段異なる専門分野の院生と学んでいる私にとって、近い分野で、しかも数多くの院生の方々とご一緒させていただいたこと、また研究報告や先生方による講義を拝聴したことは、大いに刺激となりました。簡単にはありませんが、私が得た学びを以下にまとめさせていただきます。

受講生の研究報告では、イスラームにかんする歴史学・人類学・文学など様々な分野の知見や研究方法について理解を深めることができました。どのような切り口からリサーチ・クエスチョンを設定し、それに答えるべくいかに論理を組み立てるのか、加えて先生方のコメントからは、研究キーワードの定義にかんする先行研究の議論を押さえる必要性を学びました。何より報告者の方々が、長期間の現地調査で得た膨大なデータ、あるいは丹念に読み込んだ史料の内容をまとめ上げ報告に臨まれたことに対し、敬服いたしました。私も今後修士論文の執筆にあたり、作業量を少なく見積もることのないよう、今一度研究計画の見直しに取り掛かなければなりません。

先生方による講義では、各分野の最先端の研究成果に触れられたほか、研究に向かう上で重要な姿勢についても学ぶことができました。とくに嶺崎先生がお話くださったような、学際的研究を行う上で不可欠なこと（各学問分野の基本文献・学説の把握、自身の研究のマッピング）は、常に念頭に置きながら学習に励むべきことと痛感しました。軸足を置く分野を深めることをもちろん怠ってはなりません。視野を拓げるための時間を確保できるよう、バランスを上手にとることも努めたいと思いました。

以上をまとめるにあたりセミナー資料を再び読み返してきましたが、お世話になった受講生・先生方の顔が今とんでも思い出されます。懇親会では研究に限らず様々なお話を伺うことができ、留学などについても有用な情報をお教いただきました。日々の活動拠点は異なりますが、研究に打ち込むための心の支えまでもいただいたつもりです。最後になりますが、事務面でご支援くださった千葉さまに厚く御礼申し上げ、また、首都圏外でイスラーム関連の研究をなさっている院生の方々に本セミナーを強くおすすめし、私の感想を終えさせていただきます。